福祉科（生活支援技術）　学習指導案（例）

日　　時	平成○○年○月○日（○）第○校時
学 年 ・ 組	社会福祉科　第○学年○組（男子○名，女子○名）
使用教科書	「○○（教科書名）」（○○出版社（出版社名））
指　導　者	○○高等学校　教諭　○　○　○　○

1　単元名　　「食事の介護」

2　単元の目標

食事の意義と、高齢者や障害者の自立及び快適な生活に向けた食事の在り方を理解させ、食事介護に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせる。また、食事介護の望ましい在り方についての考えを深めさせるとともに、より安全で快適な食事介護を目指して意欲的に取り組む態度を養う。

3　単元の指導観

(1) 教材観

「食事」は生徒にとって身近な教材であり、興味・関心を持って取り組むと思われる。生徒自身の食生活を振り返らせながら、食事のもつ意義を考えさせたい。また、食事介護では「食べもの」を取り扱うということから、介護する側の清潔についても再認識させたい。そして、利用者の自立と快適な生活のための、望ましい介護方法について考えさせたい。

(2) 指導観

介護者は利用者の生命を守り、安全・安楽に過ごせるような技術の提供をしなければならない。校内実習ではあるが、実際に利用者に接するようなしっかりとした服装・態度で臨ませたい。また、高齢者の食事介護における誤嚥などの事故防止や緊急時の対処法についても十分理解させたい。

(3) 生徒観

専門科目に対する興味・関心が高く、積極的に授業に取り組む姿勢がうかがえる。男子が多く、クラスのまとまりもよいが、授業や校内実習にも慣れ、緊張感に欠ける生徒も見られるため、しっかりとした態度で授業に臨ませたい。

4　単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食事の介護について関心を持ち、高齢者や障害者の自立と快適な生活のための、よりよい食事の介護を目指して意欲的に取り組んでいる。	食事の意義について考えを深め、高齢者や障害者の自立と快適な生活のための食事の介護に関する課題や望ましい在り方について考察し、その成果を的確に表現している。	高齢者や障害者の自立と快適な生活のための食事の介護に関して、基礎的・基本的な技術を身に付け、安全や快適さに配慮しながら適切に処理している。	食事の意義及び高齢者や障害者の自立と快適な生活へ向けた食事の在り方を理解し、食事の介護に関する基本的な知識を身に付けている。

5　単元の指導計画及び評価計画（１２時間）

時	学習内容	評価計画【評価規準との関連】	評価方法
1・2・3・4	1 食事の意義と食事摂取の基礎知識 ○食べることの意義 ○食べることのメカニズム ○食事のアセスメント	○食べるということが生命の維持、健康の増進、病気の回復にとって重要であることを理解し、食事の意義について考えを深めている。【知】【思】 ○食べるということについて解剖生理学的に理解する。【知】 ○食事に関するアセスメントの方法を理解している。【知】	○参加態度・姿勢 ○学習プリント ○ペーパーテスト
5・6・7・8	2 食事介護の実際と事故の予防 ○食事介護の原則 ○食材の購入から調理まで ○誤嚥・窒息の防止 ○脱水の徴候と予防	○食事介助の原則を理解し、その具体的な方法に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。【知】【技】 ○嚥下運動について理解し、誤嚥や窒息の予防法と対処法を身に付けている。【知】【技】 ○脱水の徴候と予防法について理解している。【知】	○参加態度・姿勢 ○学習プリント ○ペーパーテスト
9・10・11・12（□は本時）	3 食事介護（実習） ○座位での食事介助 ○仰臥位での食事介助 ○アイマスクをしての食事摂取 ○食事の形態 （常食、きざみ食、ムース状、流動食、とろみ水）	○利用者の状況に応じた安全・安楽な食事介護の在り方について考え、利用者に声を掛ける等の方法で反応を確かめたり、介護方法を工夫したりしながら介護している。【思】【技】 ○体位や食事の形態による嚥下の違いについて理解し、状況に合わせて適切に介助している。【知】【技】 ○高齢者や障害者の自立と快適な生活のための、よりよい食事の介護を目指して、周囲と意見交換を行いながら、意欲的に取り組んでいる。【関】	○参加態度・姿勢 ○学習プリント ○実習レポート

【関】＝関心・意欲・態度　【思】＝思考・判断・表現　【技】＝技能　【知】＝知識・理解

６　本時の指導

(1) 題　目　　食事介護（実習）

(2) 目　標

体位や食事の形態による嚥下の違いについて理解させるとともに、利用者の状況に応じた安全・安楽な食事介護の在り方について考えさせ、適切な食事介護の方法を身に付けさせる。

(3) 準備物

食事（主食、主菜、副菜、飲み物各１品）、食器（食器類、箸、スプーン、フォーク、トレイ）、
食事用エプロン、タオル、おしぼり、とろみ剤、アイマスク、学習プリント、実習レポート用紙

(4) 本時の展開（１２時間のうちの第９，１０時）

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価〔評価方法〕
導入 10分	食事介護の実習方法の確認 （必要物品、手順、留意点等の確認）	○本時の実習内容や方法を確認する。	○事前にホワイトボードに方法等を整理して記載しておく。 ○補助教員が服装の確認をする。	
展開 70分	①利用者の準備と配膳	○利用者に介護内容を説明して、安楽で安定した体位をとらせる。 ○襟元にタオルを掛ける。 ○配膳をする。 ○おしぼりで利用者の手を拭く。	○利用者役の生徒への準備の指導、及びそれ以外の生徒への配膳やその他の準備の指導を補助教員と分担して行う。	
	②ベッド上、仰臥位での介護	○利用者に食事の内容を説明する。 ○誤嚥のないように一口の食事量や形態、摂食する際の姿勢等を考えながら介護をする。 ○食事の摂取状況を利用者に声をかけたり、観察したりして確認をしながら介護をする。 ○体験した内容と感想を学習プリントに記入する。	○教員１人が５ベッド（５グループ）を担当し、巡回指導を行う。 ○介護を始める際、一口の食事量や形態、姿勢等のポイントを常に確認しながら介護するように促す。 ○利用者役の生徒に嚥下の状態を尋ねたり、介護するペースは適切かを確認したりするよう介護者役の生徒へ促す。 ○食事は普通食と刻み食、飲料水はそのままのものととろみをつけたものを用意し、それぞれを体験させる。	○利用者の状況に応じた安全・安楽な食事介護の在り方について考え、利用者に声をかける等の方法で反応を確かめながら介護を行っている。 【思考・判断・表現】【技能】 〔観察、プリント、レポート〕 ○体位や食事の形態による嚥下の違いについて観察や体験を通じて理解し、それらの状況に合わせた方法で介護を行っている。 【知識・理解】【技能】 〔観察、プリント、レポート〕
	③視覚障害者のベッド上、座位での介護（アイマスク使用）	○視覚障害がある人の適切な食事介護の在り方を考えながら食事介護をする。 ○食事の摂取状況を利用者に声をかけたり、観察したりして確認をしながら介護を進める。 ○体験した内容と感想を学習プリントに記入する。	○介護を始める際に、食事内容の説明やクロックポジションを用いた食事の配置等の説明を適切に行うように促す。 ○利用者役の生徒に嚥下の状態を聞いたり、介護するペースは適切かを確認したりするよう介護者役の生徒へ促す。	○利用者の状況に応じた安全・安心な食事介護の在り方について考え、利用者の食べるペースや反応を確かめたり、介護方法を工夫したりしながら介護を行っている。 【思考・判断・表現】【技能】 〔観察、プリント、レポート〕
	④ベッド上、座位で自力摂取（利き手は麻痺側とする）	○利き手ではない方の手を使い、ペースや不自由さの克服方法等を考えながら食べる。 ○体験した内容と感想を学習プリントに記入する。	○利用者役以外の生徒には、食べるペースや不自由さをどう克服しているか等について観察するよう促す。	
	⑤役割の交代	○①～④の学習を、利用者と介護者の役割を交代して再度実施する。	○交代のタイミングを指示し、同じ活動を他方の生徒にもさせる。	
まとめ 20分	授業の振り返り	○利用者と介護者、それぞれの立場での感想を発表する。 ○実習レポートを記述し、提出する。	○各ベッド１名ずつ発表させる。 ○意見をまとめ、次の実習に生かし、つなげるように促す。	